

ほんだ ゆか
本多 由佳 選手(23歳)

=(株)河北新報社勤務=

●多種多様な仕事にびっくり●

「新聞を製作して販売するだけじゃなく、子どもたちの社会勉強のお手伝いをしたり、マラソン大会や美術展を開催したりと、本当にたくさんの仕事があるんだと、初めて知りました」

“職種のデパート”とも言われる新聞社に勤務して半年。総務局に所属する自らも、さまざまな業務に携わる。データベースを利用するため本社を来訪したお客様の記録をパソコンに打ち込むなどの事務作業のほか、仙台駅近くのアエル8階にある小学生向け職業体験施設「スチューデントシティ」の河北新報ブースで、5、6年生の校外学習の手助けに奮闘する。河北新報印刷センター(泉区)では、見学に訪れた子どもたちを展示ホールに案内して、説明に当たる。

「少しは慣れてきましたが、先輩や上司の方々のサポートがあってようやく今の仕事が成り立っています」と自覚している。その上で「人と関わる仕事をさせていただき、楽しいし、やりがいがあります」。ハキハキとした口調に、社会人1年生らしい初々しさのぞく。「社内のあちらこちらにポスターや旗が貼られていたり、声を掛けてくださったり。仕事のスケジュールも私に負担をかけないようにと組んでくださり、皆さんから応援されていることをすごく感じます」と、周りへの感謝を忘れない。

●古里は魚がおいしい富山県●

富山県高岡市出身。「魚がすごくおいしいです。中でもホタルイカやブリ。鱒寿司もすごく有名で、帰省するたびに食べます」と、まずは古里の味をPR。北陸新幹線の開通で行きやすくなったこと、富山駅の近くに「世界一美しい景色が見えるスタバ」があることなど、地元愛あふれる紹介が続く。

オフの日は、歳の近いベガルタの選手たちとご飯を食べたり買い物に行ったり。仙台の食べ物では牛タンがお気に入りだ。「よそのに比べ、分厚くて軟らかいです」とニッコリ。富山から時々、家族が遊びに来るといい、「母と一緒に初めて仙台七夕を見て、感動しました」。3歳上の姉とは松島の遊覧船に乗って楽しんできたという。

自炊生活では、野菜をたくさん摂るよう心掛けている。

サッカーだけでなく、仕事や趣味、オフの過ごし方など、選手の素顔の一端を、職場の仲間の声も交えながら紹介する「ふだん着の織姫たち」シリーズ。ことし最後となる今回は、身長170cmの大型ルーキーFW本多由佳選手(背番号25)です。

食物繊維が多く消化の良いもの、温かいものも。ご飯は白米ではなく、大麦や玄米を混ぜて炊いているとか。得意な料理を尋ねると、ちょっと考えてから「最近、豚汁にハマってます」。

JFAアカデミー福島に所属していた2010年、U-17W杯の準優勝メンバーとなったほか、大阪体育大4年だった昨年はユニバーシアードでハットトリックを達成し、銅メダルに輝いた経歴の持ち主。だが、ベガルタ入りした今年は、リーグ戦第9節(5月15日・コノミヤ戦)で初出場を果たしたものの、その後2度の負傷に見舞われ、悔しいシーズンを送っている。

それでも、下を向いてはいない。「けがは誰のせいでもありません。もっと自分の体を大切に、毎日万全な状態で練習に取り組むことが大事だと、改めて思いました」。つらい経験もプラスに捉える期待の23歳は「一日でも早く試合に出て、点を取ってサポーターの皆さんに喜んでもらえるよう、全力を尽くします」と言って、愛らしいクリッとした目を輝かせた。



<応援しています!!>

●一生懸命な姿勢で日々成長●

仕事に対し、とても一生懸命取り組む人です。普段接している時はシャイな感じの女性なんですけど、見学の子どもたちにお話をする様子は別人のようにキリッとしていて、その“落差”がとても魅力的。分からないことはすぐ聞いて学ぶ姿勢がありますし、アドバイスは素直に受け入れてくれるので、日々成長しています。けがで毎日つらいメニューをこなしていると聞きました。仕事との両立は大変だと思いますが、ピッチに立って活躍する姿が見られる日を楽しみにしています。

(先輩の長井美樹さん)

文：K. Tsuge

あすに向かっ、けがの経験も力に

ベガルタ仙台レディース

後援会通信

The Support Association of VEGALTA SENDAI LADIES 編集・発行/ベガルタ仙台レディース後援会

2016年度

vol. 6

(通算 vol.22)
10月16日発行

選手を鼓舞するビッグフラッグ



▲メインスタンドに広げられたビッグフラッグ=8月7日のカップ戦第10節新潟L戦・ひとめぼれスタジアム

ベガルタ仙台レディースのホームゲームの試合前、スタンドに大きく広げられた「ビッグフラッグ」をご覧になった方は多いでしょう。トップチームで目にすることはよくありますが、レディースチームでは他にあまり例がないと思われるビッグフラッグについて、改めてご紹介します。

サポーターの応援のシンボルであり、選手の力となるビッグフラッグ。「ベガルタ仙台レディースにもあるといいね」という話が持ち上がったのは、チーム発足2年目の2013年でした。サポーター有志とレディース後援会、そしてベガルタ仙台ホームタウン協議会の3者共同で作製することになり、9月29日、角田市陸上競技場で行われたジェフL戦で募金活動がスタートしました。

活動はベガルタ仙台の協力も得て、11月10日の最終戦までホームゲームで計4回実施。来場者の皆さんの反応は上々で、ホームタウン協議会からの助成金20万円を合わせて総額89万4,384円が集まりました。目標だった80万円をクリアです。

作製されたビッグフラッグは、縦14メートル、横20メートル。ゴールドをメインとした地に「Vegalta Sendai

Ladies」の赤い文字とベガルタのエムブレムをあしらったカッコいいデザインで、当初の予定通り、14年3月30日のホーム開幕戦(ジェフL戦)でお披露目となりました。費用は77万6,648円。残金は、募金して下さった皆さんのレディース選手への支援の気持ちを大切にしようと、選手の第一希望だったクラブハウスの冷蔵庫購入に充てたほか、レディース支援金としてベガルタ仙台へ贈らせていただきました。

ビッグフラッグは現在、サポーター有志の管理の下、ホームゲームの多くで、選手の入場に合わせてメインスタンドやゴール裏に広げられています。横長に置かれた状態から、下に入ったサポーター一人ひとりの手で支えられながら徐々に全体像を表していくその様子は、まさに壮観そのもの。これから戦いに臨む選手の気持ちを強く鼓舞していることは間違いありません。





「台風10号災害義援金募金」に協力しました

ベガルタ仙台レディース後援会は、リーグ戦が再開した9月11日の第12節アルビレックス新潟レディース戦の試合前、会場となった石巻市総合運動公園で、8月末の台風10号による被災地を支援しようと、ベガルタ仙台に協力して募金活動を行いました。

活動には、レディースの有町紗央里、千葉梢恵、万屋美穂、本多由佳、平田美紀の5選手も駆け付けてくれました。選手と一緒に「台風10号災害義援金の募金をよろしくお願ひします!」と呼びかけると、来場者の皆さんが次々に足を止め、それぞれのお気持ちを寄せてくださいました。中には、小さな手を照れくさそうに差し出し、握りしめた硬貨を募金箱にそっと入れてくれたお子さんも。

この日集まった募金は6万5,034円に上りました。前日夜のトップチームの横浜F・マリノス戦で集まった分と合わせた40万9,429円が、ベガルタ仙台からグルージャ盛岡に送られ、台風10号で大きな被害に遭った岩手県岩泉町に届けられたということです。

ご協力くださったファン、サポーターの皆さま、ありがとうございました。この場を借りて、ご報告かたがた改めて御礼申し上げます。



▲来場者に募金を呼び掛けた後援会メンバー



▲選手の皆さんも一緒に大きな声を出してくれました

後援会ブーススタッフ紹介

Introduction of Booth Staff

番外編 本間 賢二さん

今回は番外編として、ブーススタッフではありませんが、この後援会通信の特集「ふだん着の織姫たち」で毎回、選手の似顔絵を描いていただいている本間賢二さんを紹介いたします。

もともと絵が好きで、奥様が働いていた児童館や保育所でボランティアとして壁画や行事案内のポスターを描いたりしていた本間さん。勤務先(みやぎ生協)の上司が後援会事務局のスタッフを務めている関係で似顔絵の執筆を依頼された時は、喜んで引き受けたとのこと。「どうしてもリアリティーを求めてしまい、劇画タッチ、少年漫画風になりがちなので、なるべくかわいく描くように気を付けています」と教えてくれました。

職場で隣に座っているのが佐々木蘭選手。サッカーのこと、仕事のこと、家族やペットの話などで盛り上がっていますが、蘭さんは娘さんに年齢が近いので父親感覚だとか。同じくみやぎ生協に勤めている岸川奈津希選手、西川明花選手ともども応援しています。そんな本間さんの願いは「みんな、ケガをしないように頑張る」。

後援会通信の読者の皆さんに向けては「あんまり似ていないかもしれませんが、精いっぱい描かせていただきます。選手を見守ると同じ温かい眼差しで眺めてください」と、にこやかにメッセージを寄せてくださいました。本間さんはこれからも、元気いっぱいの織姫たちを描いていきます。お楽しみに!

ともに応援しましょう(後援会入会のご案内)

私たちベガルタ仙台レディース後援会は、ベガルタ仙台レディースを応援し、さまざまな支援活動を通してスポーツ文化振興及び地域、社会の発展に寄与することを目的として設立いたしました。

宮城を元気にしてくれるチームの活躍に感謝し、ともに応援しましょう。あなたのご入会をお待ちしています。



来場したお子さんに「ベガルタかぶと」の折り方を指導する▶
後援会ブーススタッフ=5月3日の浦和戦前・ユアスタ

ホームゲーム会場の
後援会ブースで
受付をしています。

○入会金 / 3,000円(初回のみ)

○年会費 / 1口2,000円(何口でも)

○入会特典 / 後援会オリジナルTシャツ、後援会オリジナルバッジ

☆入会時は入会金と年会費を合わせた金額をお支払いください。(更新時は年会費のみ)
☆2016年度会期は2017年1月31日までです。☆入会時に会員証をお渡しいたします。

会員継続・更新手続きのお願い

平素より後援会活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。発足以来、645名の皆様にご入会いただき、そのご支援が大きな支えとなっておりますことを、心より御礼申し上げます。

ベガルタ仙台レディース後援会は、会員一人ひとりがつくりあげる組織です。まだ、2016年度の更新をされていない会員の皆様は、更新の手続きを行っていただき、引き続きご支援くださいますよう、よろしくお願いいたします。

2016年度の会期は、2016年2月1日～2017年1月31日です。

会員更新手続きは、以下の通りです。

☆ホームゲームの際に、後援会ブースで簡単に更新手続きができます。

後援会ブースは開場から試合開始15分前まで開設しています。

☆郵便振替での更新手続き方法【青色で印刷された振込取扱票をご使用ください】

振込先：ベガルタ仙台レディース後援会 口座記号番号：02270-0-112505

通信欄：1) 会員番号 2) Eメールアドレス (変更があった場合のみ)

会費：一口2,000円以上、何口でも結構です。

☆更新の際に本年度バージョンの「後援会オリジナルバッジ」(写真右)を進呈いたします。

